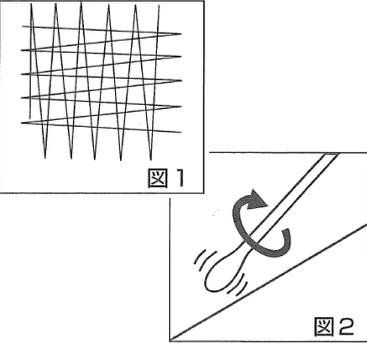
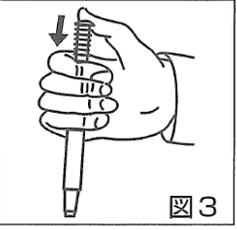
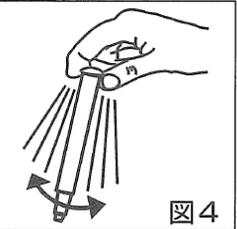


ルミノメーター使用手順

手順		注意事項
1. 測定試薬の準備 ATP測定試薬を冷蔵庫から出し、使用前に少なくとも10分間室温におく(ホイールバッグに入れたまま)	表面用試薬 UXL100	冬季など室温が低い場合は長めに室温におく(試薬の温度が低いと測定値が低目に出る)
2. ルミノメーターの電源を入れる 電源ボタン(赤色)を「ピー」となるまで長押しする * 自動的にセルフチェックが始まる		
3. 検体を拭き取る ホイルバッグから測定試薬を取り出す 青い持ち手部分をつまみ、スワブ(綿棒)をチューブから引き抜く		ホイルバッグから試薬を取り出すのは、測定の直前にする(遮光しておく)
測定するところをスワブで拭き取る * 一定面積(例10cm×10cm)を縦横方向に往復させて拭き取る(図1) * スワブは回転させながら拭き取る(図2)		生け水の汚染度を評価する場合は下記参照 繰り返し測定する場合は、同じ箇所を拭き取らない
4. 試薬を反応させる スワブを再びチューブに入れる 持ち手の上部を強く押し込む(チューブ底面の仕切りが破れるまで)		強く押し込まない状態(反応前)なら4時間まで保存できるので、後でまとめて測定することも可能
チューブの上部を持ち、少なくとも5秒間左右に素早く振る * 検体と試薬を混ぜて反応させる		上下には振らない 反応後はすぐに測定する

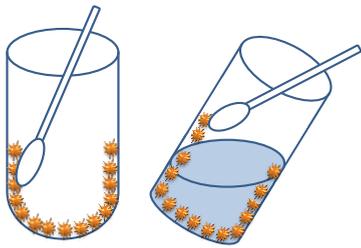
5. ルミノメーターで測定する		
<p>ルミノメーターの緑のつまみを押し、チャンバーのキャップを開ける</p>		<p>試薬反応後はすぐに測定する</p>
<p>チャンバーにチューブを挿し込み、キャップを閉じる</p>		<p>ルミノメーターは横向きにしない</p>
<p>「サンプルを測定」が選択されているので、右上のボタン(緑色)を押して、測定を開始する</p> <p>* 数秒で測定値が表示される</p>		
<p>測定が終了したらすぐにチューブを取り出す</p> <p>* 続けて別のチューブを差し込んで次の検体を測定する</p>		

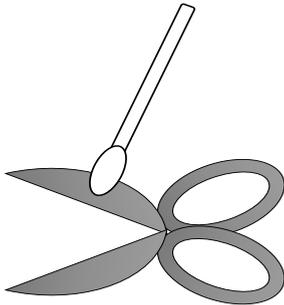
使用機器および試薬

- ・3MTM クリーントレースTM ルミノメーター UNG3
- ・3MTM クリーントレースTM ATP測定用試薬 UXL100

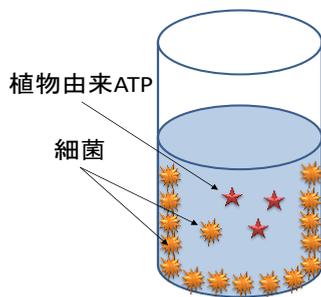
* 各使用説明書をもとに作成した。詳しくは製品の使用説明書を参照のこと。

実践編 『検体の拭き取り方法』

生け水の汚染度を評価する場合		
<p>生け水を捨てて、容器内側の水に浸っていた部分をスワブで拭き取る</p> <p>* 生け水を捨てたくない場合は、水を捨てずに容器を傾けて、水に浸っていた部分をスワブで拭き取る</p>		<p>スワブ(綿棒部)は水に浸けないようにする</p> <p>繰り返し測定する場合は、同じ箇所を拭き取らない</p>

ハサミの汚染度を評価する場合		
<p>ハサミの両刃の表裏をまんべんなくスワブで拭き取る</p>		<p>ハサミは原則として、作業当日の使用前あるいはそれに準じた状態のものを測定する</p>

参考：容器内の細菌繁殖の状態



- ・細菌は主に容器の内側に付着して増殖する
- ・生け水中に浮遊している細菌は容器内側に付着している細菌数に比べ少ない
- ・生け水中には植物由来のATPも存在する